



昔のくらしを、体感する

民俗

folklore

施設概要

■用途:歴史民俗資料館 ■敷地面積:922㎡ / 延床面積898㎡ / 展示室547㎡/収蔵庫215㎡ ■構造:RC造2階建て ■設置年:昭和48年 ■所管課:社会教育課 ■管理形態:直営 ■収蔵点数:民俗資料:約10,000点、考古資料:約10,000点

■主な事業:
展示事業(常設展示・企画展示)・教育普及事業(ワークショップ・講座等)・刊行物発行・資料等の貸し出し・資料収集保管事業(収蔵資料のインターネット公開)

年中行事・体験学習

■主な事業:
展示事業・教育普及事業(ワークショップ・講座等)・刊行物発行・資料等の貸し出し・資料収集保管事業・消毒保存処理



須恵町立 歴史民俗資料館

SUE TOWN MUSEUM OF HISTORY



交通アクセス
■車 天神から東へ、福岡空港から約25分
利用道路 須恵スマートIC(普通車限定)・福岡IC・太宰府IC
県道607号線、県道35号線
■バス 西鉄バス5番『老人ホーム前』下車、徒歩約15分
須恵町コミュニティバス 佐谷-上須恵線『血山公園』下車すぐ
香椎線『須恵中央駅』下車 徒歩約40分

開館時間 午前10時～午後5時(但し入館は4時30分まで)
入館料 無料(無料駐車場約100台)
休館日 毎週月・火曜日(祝日開館)・お盆・年末年始
所在地 福岡県糟屋郡須恵町上須恵21-3
Tel・Fax 092-932-6312
E-mail museum@town.sue.fukuoka.jp

ホームページにて約6000点の収蔵資料を公開中

https://www.town.sue.fukuoka.jp/kanko_bunka_sports/shisetsu/6_1/index.html

須恵町に残る伝統文化を映像で紹介「須恵町の民俗文化」シリーズ

Youtubeで 須恵町の民俗文化 検索

(2011年5月現在)

施設案内

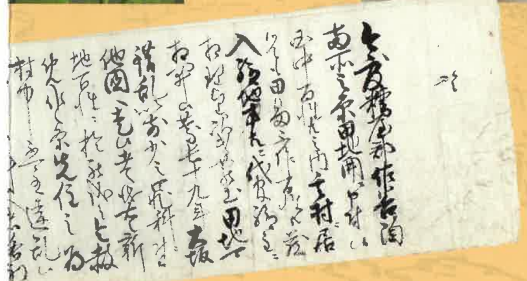
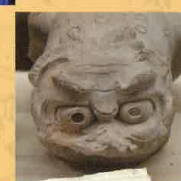
須恵町志
歴史民俗資料



先人の記憶を聴こう



須恵



history

昔のくらしを未来に伝える

歴史

沿革 ～九州最古の町立博物館～

江戸時代、「須恵」の名を全国に知らしめた磁器御用窯「須恵焼」、眼科医「田原眼科」「岡(高場)眼科」に関する諸資料、明治から昭和にかけて日本の発展を支え続けた「海軍炭鉱」「志免鉱業所」に関する諸資料、そして須恵の地に生き続けた先祖の生きざまを後世に伝えたい……。このような願いが込められて、須恵町立歴史民俗資料館は、昭和48年7月に竣工、翌49年7月に開館しました。九州では最も古い市町村立の歴史民俗資料館です。

初代館長として故板橋謙吉氏を迎え、町内各区より「民俗資料収集委員」を委嘱し、精力的に各種資料の収集に努力を重ねた結果、昭和57年時に約6,000点の資料が収集され、その後もコレクションを増やしています。

須恵町立

歴史民俗資料館



SUE TOWN MUSEUM OF HISTORY

歴史

多彩な展示でいにしえから現在まで見て学ぶ、すえの歴史と民俗

民俗



1 須恵のあけぼの

～掘り起こされた須恵の歴史～

須恵町の最古の遺跡は今から約1万3、4000年前にさかのぼります。町北西部の乙植木山城戸遺跡では、石器類が出土しています。縄文時代・弥生時代にも遺跡が営まれ、古墳時代になると遺跡は急増し、若杉山麓に古墳が作られました。乙植木の牛ヶ熊遺跡は、滑石の原石や未製品が出土し、玉製品の工房跡であることがわかりました。

2 花開く仏教文化

～最澄ゆかりの建正寺～

佐谷の建正寺は、伝教大師(最澄)が開基したと縁起に伝えられている寺院です。平安時代後期とされる十一面観音像や正中2(1325)年銘の板碑は、県指定文化財となっています。天治3(1126)年銘をもつ経筒は、現在、東京国立博物館にあります。現在も地元の人々の信仰の場となっており、毎年4月第一日曜日には、十一面観音の御開帳が行われ、県内各地から参拝者が訪れます。

3 御典医と眼病人宿

～田原眼科と岡眼科～

江戸時代の上須恵村・須恵村にはそれぞれ田原家・高場(岡)家という眼科の名医がいました。田原氏は、江戸4大眼科の一つに数えられました。目薬の製造元も数軒あり、須恵の目薬と眼療医の名前は全国に響きました。患者が治療のために北は松前(北海道)、南は薩摩(鹿児島県)からこの須恵を訪れ、大きな宿場町を形成して賑わいをみせました。

4 お殿様の焼物 須恵焼

～黒田藩の磁器御用窯～

江戸時代、上須恵の皿山において約150年間焼かれた焼物(磁器)です。宝暦14(1764)年に窯が築かれ、明治35(1902)年まで焼かれました。天明4(1784)年に藩営の窯となり、須恵皿山役所が設置され、黒田藩の唯一の磁器御用窯として発展しました。皿山には、県内最大規模を誇る須恵焼の窯跡が県指定文化財として保存されています。

歴史文化を訪ねる

高鳥居城跡 ～中世の山城～



資料館裏の登山道を登ること約1時間、岳城山の山頂平坦部が、中世の山城である高鳥居城です。永仁元(1293)年に築城されたと伝えられています。室町時代には大内氏の筑前守護・杉氏の居城となり、大内氏が陶氏の反乱にあつた際に城は落城し、守母神社の伝説が生まれたとされています。その後、天正14(1586)年に、島津氏の北上の際に城に立てこもった星野兄弟を立花統虎(後の柳川藩主・立花宗茂)が攻め落としました。



5 近代化遺産 国営炭坑

～新原から始まった炭坑～

明治から戦前にかけては海軍、戦後は国鉄が管轄し、昭和39(1964)年に閉山しました。新原公園には、海軍炭鉱創業50周年の記念碑があります。今も残る国の重要文化財 竪坑櫓や、五抗ボタ山跡が当時の面影をしのばせています。



海軍炭鉱創業記念碑

1 暮らしのなかで使われた道具

～人々の息づかいが伝わる道具～

明治から大正・昭和の半ばまで人々に使われた道具類は、ほとんどが生活に密着したものでした。1階は衣食住に関する生活用具、2階は農具など、多くの民具を展示しています。

2 職人の手仕事

～匠の道具～

当時の生活の基礎となる民具は、ひとつひとつが専門の職人の手仕事によるものでした。大工・下駄職人・鍛冶職人・石工・桶職人など、さまざまな分野の職人の道具を収蔵しています。



炭坑の道具

3 くし・こうがいのコレクション

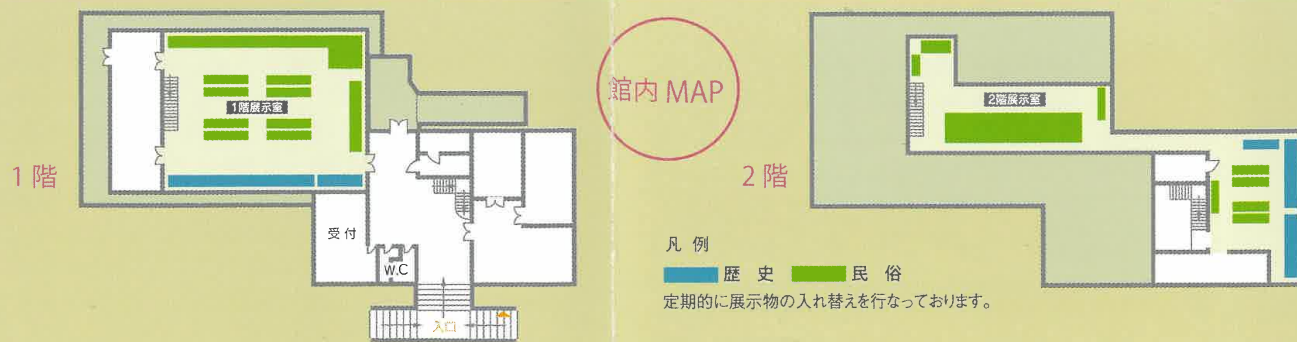
～東出コレクション～

主に江戸から大正期までのものを集めた、太宰府市の故東出芳枝さんのくし、こうがい、かんざしのコレクション約600点を収蔵しています。繊細な細工と色とりどりのデザインが、女性達の心の高まりそのまま感じさせてくれます。

4 上須恵祇園山笠

～町指定無形民俗文化財～

7月24日に一番近い日曜日に行われます。須賀神社を出発し、上須恵地域のほぼ全域をかき山し、須賀神社に戻ってきます。子ども用の山笠もあり、かき山が通る沿道には多数の住民が控え、力水で応援するなどして盛り上がる上須恵地区の代表的な祭りです。



まなぶ — 先人の知恵と技のすばらしさを学ぶ・体験学習 — おもいだす

資料館では、須恵町の歴史と文化の継承するため、さまざまなプログラムを用意しています。

子供向けプログラム

小学校の社会科見学、中学校の職場体験学習、大学生の博物館実習の受け入れ等を行っています。特に小学校の社会科見学では、民俗資料に触れる体験プログラムも行っています。

伝統文化の継承プログラム

毎年12月に、資料館でしめ縄・しめ飾りを作っています。(広報誌で募集しております。) 今後、資料館を利用した体験プログラムも検討しています。